



「なぜ、制服を着るの？」

～「制服」は社会に対する感謝とその人々に対する敬意を表しています～

～校長先生 1学期終業式 講話より～

各競技で、海部地区中学校総合体育大会が行われました。どの競技でも、一生懸命にプレーする皆さんの姿が見られ、とてもうれしく感じました。今年は、無観客での試合となり、保護者の方々に参観していただけなかったことが残念でしたが、どの競技も無事に開催することができ、思い出に残る大会になったと思います。

今年度は、昨年度と違って、終業式も可能な限り制服で参加してもらいました。今日は、皆さんに「なぜ、制服を着るのか」について考えてもらいたいと思います。「なぜ、制服を着るのか。何のために制服はあるのか」について、皆さんは考えたことはありませんか。「あたりまえ」シリーズ第2弾です。制服の「あたりまえ」について考えてみましょう。

小学校のときは、皆さん制服がありませんでしたね。海部地区には、制服がある小学校もあります。日本の中学校や高校では、昔から制服があるのは「あたりまえ」ですね。それは、なぜでしょうか。

まずは、「制服の歴史」から考えてみましょう。学校教育の中で、制服として服装が統一されたのは、1870年代に学習院という学校が、海軍式制服を参考にして採用したのがはじまりとされています。そのときの制服は「詰め襟とセーラー服」だったようです。「学生同士での経済的な格差をもちこまない」や「学生としての意識を高める」などを目的に制服は徐々に広まってきました。

第2次世界大戦中やその後は、物資不足が続いたため、従来の制服を着用できる生徒はほとんど見られませんでした。その後経済が回復するとともに、制服も復活の兆しを見せ始めました。

学校教育において「制服」を着用する意味について考えてみたとき、校長先生は次のように考えました。

日本では、全ての子どもたちが、同じ場所で同じことを、みんなで学んでいます。どのような人でも、貧富や身分の差などに関係なく、平等に教育を受けることができます。「SDGs」に関する授業などで学んだかもしれませんが、世界に目を向けてみると、学校に通いたくても通えない子どもたちや学びたくても学べない環境で生活している子どもたちが、まだまだたくさんいます。制服は、「どのような人でも貧富や身分の差など関係なく、統一された身なりで学ぶことができる」という象徴であり、「平等に全ての子どもたちが学ぶことのできる環境」を整えてくれた「社会や人々に対する感謝と敬意」を表しているのではないのでしょうか。

コロナによって「あたりまえ」のことを、改めて振り返るようになりました。「あたりまえ」だからではなく、常に「なぜ」と考えることが大切です。そのときに必要になるのは、勉強です。「あたりまえ」には、その歴史、背景、時代とともに移り変わっていった変遷などがあります。それらを勉強した上で、自分の考えをもつようにしましょう。「あたりまえ」を改めて考えることで、さまざまなことが見えてくるようになると思います。感謝の気持ちをもてるようになってくると思います。夏休み中に、そんな勉強をしても楽しいのではないのでしょうか。

それでは皆さん、健康と安全には十分注意して、充実した楽しい夏休みを過ごしてください。